



天塩川 *Teshio River*
問寒別川 *Toikanbetsu River*
雄信内川 *Onobunai River*

朔北の大河、天塩川

River Projects of Horonobe River Office



長い旅路の果てにその大いなる流れは、悠々と日本海へと注いでいきます。

River Projects of Horonobe River Office

北の暮らしと大地をうるおす 母なる流れ、天塩川。



天塩川は我が国最北を流れる大河川で、北見山地の天塩岳（標高1,558m）を源とし、天塩岳西方から名寄盆地に出て、名寄市で名寄川などの支川が合流し、音威子府の狭窄部を下って天塩平野に入ります。さらに、問寒別川、サロベツ川などの支川を合わせながら日本海に注ぐ長さ256km、流域面積5,590km²の1級河川です。

天塩川下流の流域では、主に、漁業や畑作、酪農が行われており、各町では、地域住民の生活の安定や地場産業の振興などを目指して、個性豊かな町づくりを進めています。また、豊かな自然環境をもつサロベツ原野は「利尻・礼文・サロベツ国立公園」に指定されており、道内外から多くの観光客が訪れています。



天塩川 *Teshio River*

● 幹川流路延長:256.0km

天塩川の由来は、アイヌ語のテッシ・オ・ベツに由来し、築(やな)川の意味です。岩が築のような形に川を横断しているところからこう呼ばれました。



雄信内川 *Onobunai River*

● 直轄管理区間:2.0km

「雄信内」はアイヌ語の「オヌブナイ」を漢字に充てたものです。オは川尻、ヌブは野、ナイは川。すなわち、川尻に原野のある川の意味です。



問寒別川 *Toikanbetsu River*

● 直轄管理区間:24.5km

「トイカンベツ」はアイヌ語で、トイは土、カムはかぶさる、ベツは川を意味し、土砂を流す川の意となります。川岸に土が多かったので、この名がつけました。

洪水の歴史と治水の歩み

History of Flood in Horonobe Area

流域の発展を
はばみ続けてきた数々の水害



いにしへの時代から毎年のように起こる洪水は、流域の開発が進み人口が増加するにつれて、甚大な被害をもたらすようになりました。この洪水被害が社会問題として取り上げられるようになったのは、明治30年代に入ってからです。

天塩川では、明治39年に水位観測、地形測量などの河川調査が開始され、大正8年に初めて治水計画が立案されました。

天塩川下流の本格的な河川改修は、昭和27年に着手された東ウヰ捷水路工事が始まり、当時は原始河川の治水対策として蛇行部のショートカットが急がれていました。その後、昭和31年からは浚渫船北海号の稼働、35年からは雄信内左岸築堤工事に順次着手されました。

現在、昭和62年3月改訂の「工事実施基本計画」に基づいて事業が進められています。



昭和50年9月洪水

発生年月日 洪水発生の原因 被害の状況

- 大正8年5月7～9日 融雪 家屋流出倒壊52戸 浸水面積10,500ha 浸水家屋701戸
- 昭和7年8月29日～9月1日 低気圧・停滞性前線 浸水家屋383戸 浸水水田3,457ha 浸水畑19,370.4ha(全流域) *治水計画改定の契機となる
- 昭和14年7月28～30日 低気圧 鉄道浸水5カ所 橋梁流失32カ所 浸水家屋344戸 道路浸水1カ所 浸水田畑1,934ha
- 昭和27年7月25～26日 低気圧 浸水家屋1,104戸 流失2戸 半壊8戸 浸水田畑400ha
- 昭和28年7月27日～8月2日 前線 死傷者8名 家屋流失半壊31戸 浸水家屋1,721戸 道路・河川・堤防損壊23カ所 氾濫面積8,038ha 農地被害1,605ha 浸水家屋37,162戸 農地被害2,848ha 氾濫面積5,907ha 死傷者6名 道路決壊113カ所



昭和56年8月洪水

下流域の洪水年表

流域の治水事業は
幾度も発生する洪水との戦いでした。
今日の穏やかな流れは
先人の労苦の結晶といえるでしょう。

- 昭和30年7月3～5日 低気圧 橋梁流損壊2カ所 家屋流失43戸 堤防決壊6カ所 氾濫5,907m² 家屋半壊23戸 浸水家屋177戸 農地1,099ha *計画流量見直しの契機となる
- 昭和45年10月24～26日 低気圧 浸水家屋453戸 農地被害1,264ha 道路決壊16カ所 橋梁破損9カ所
- 昭和48年8月16～19日 台風・前線 浸水家屋58戸 河川工事災害2カ所 家屋全半壊6戸 河川被害33カ所 道路被害18カ所 農地885ha
- 昭和50年8月21～24日 台風・前線 堤防損壊2カ所 道路橋梁損壊2カ所 農地被害481ha 氾濫面積4,253ha
- 昭和50年9月6～8日 低気圧 浸水家屋117戸 農地被害505ha 氾濫面積4,253ha
- 昭和56年8月3～7日 低気圧・台風・前線 河川堤防損壊3カ所(下流) 浸水家屋523戸(上・下流) 氾濫面積8,868ha(下流) 農地被害18,600ha(上・下流)



昭和56年8月洪水

「天塩川治水史」「水害」

MINI-DATA

昭和56年洪水

全線による大雨で天塩川流域で河川氾濫が発生。天塩・幌延町で浸水家屋42戸、農地被害3,033ha、河川決壊3箇所など、被害総額は306百万円に上りました。

安らぎを広げる河川事業

Outline of River Projects

水害から地域を守り
豊かな環境を創造するために



直轄河川改修事業と直轄河川維持修繕事業

現在、天塩川下流域（北川口地区、サロベツ地区、振老地区）では融雪出水や夏水洪水に対する流下能力の確保と堤防の質的強化を重点に河道浚渫や丘陵堤工事が年次計画に沿って進められています。

また、上流の無堤部（円山地区）では、一連の堤防工事を促進するとともに、河岸欠壊の著しい支川間寒別川では自然環境に配慮した工法が試みられています。

堤防除草や樋門・樋管の点検整備などは毎年実施されていますが、天端補修や側帯の設置についても年次計画に沿って整備されています。

治水は人々の安全な生活を支えるために必要なものですが、豊かな未来に向けて、安全性の確保とともに水と緑が豊かで生態系にやさしい川づくりを行っています。



River Projects ●01

丘陵堤工事

天塩川下流域は、サロベツ原野、ウブシ、円山にみられるように、河川沿いに泥炭層や粘性土層が広範囲に分布しています。そのため、これらの軟弱地盤対策として、より安全で安定した「丘陵堤」を実施しています。

通常より堤防の傾斜を緩やかにすることによって、堤防の強化を図り、さらに水辺に近づきやすくしてやすらぎと潤いのある空間を提供する堤防です。

River Projects ●02

浚渫事業

浚渫事業は、天塩川下流における治水事業の主役とも言えます。約800馬力の船に、カッターと呼ばれる大きな刃をつけて川底の土砂を掘削し、排泥池へその掘削した土をポンプで圧送します。

これにより川の断面が大きくなり、洪水時には安全に水を流すことができます。



River Projects ●03

樋門

樋門は内水を河川に排出するために堤防を横断して設けられる施設です。洪水時には樋門のゲートを閉め河川水が堤内地に逆流するのを防ぎます。



River Projects ●04

直轄河川維持修繕事業

河川改修工事では、洪水を防御するために堤防・護岸などを始め、樋門などを作っています。しかし、これらの施設をそのままにしておくと樋門はサビつき、ゲートの開閉ができなくなり、堤防などは草木が茂り、水防活動が困難になってしまいます。

このような事がないよう、たえず堤防除草・伐開・修繕・補修などが必要となります。河川の「維持修繕」は、「改修工事」と両方そろって始めて洪水に対してより安全な川ができるのです。

豊かな自然を育むために

Project for the Nature and Future

尊い生命や緑を
次代を生きる子供たちに引き継ぐ



天塩川河口部護岸工事

日本海に開けた天塩川河口部において、流域のさらなる安全性を確保するための護岸工事を行っています。この事業にともなって河川公園の整備が行われてきましたが、平成12年より一般開放され、周辺に暮らす多くの方々の憩いの場として定着しています。



To the Future with River

これからの河川整備の道しるべとして

■ 21世紀初頭に向けての整備方針

工事实施基本計画に代わる河川整備方針ならびに河川整備計画の策定が急がれています。

- 21世紀初頭には、堤防、河道掘削、浚渫を実施することにより、40年に1度発生する規模の洪水に対応した川の大きさを確保します。
- 工事を実施する際には、「魚・鳥・人にやさしい川づくり」をテーマにして、川が本来持っている自然環境機能を生かし、川辺の景観を良好に保つように努めます。
- 桜つつみモデル事業や、河川環境整備事業、カヌーの発着可能な河岸保護工の整備等を通じて、親水公園・温泉等の流域市町村が取り組んでいる様々な事業との連携を図り、地域の活性化をバックアップします。
- 天塩川を媒介として流域市町村が一体となり、流域内はもちろん流域外からもたくさんの人が天塩川への河べりに集まり交流の輪が広がっていき流域の活力が高まっていく、そんな川の姿を目標に川づくりを進めます。



～流域に暮らす住民のみなさんと共に考える明日の川づくり





NATURE DATA

天塩川周辺の 生き物

鳥類

天塩川流域には200種程度の鳥類が生息しているものと思われ、特にサロベツ原野は野鳥類の繁殖に適し、国の天然記念物に指定されているオジロワシ、ヒシクイ、また、アカエリカイツブリ、マガモ等数多くの種の繁殖が記録されています。森林地帯にはエゾライチョウ、トラフズク、ヤマゲラ、アカゲラ等が生息しています。

また冬の終わりに春にかけて、多数の白鳥が飛来します。

魚類

天塩川水系は、石狩川と並んで道内では最も魚類相が豊富で、37種の生息が確認されています。最も多いのはウグイ、フクドジョウ、ハナカジカです。絶滅の恐れのある野生生物危機種のイトウ、第2回自然環境保全基礎調査対象種のトミヨ、イバラトミヨの生息も確認されています。またサケの遡上する川としても知られています。

ほ乳類

天塩川流域ではキタキツネやシマリス、エゾタヌキなどの生息数が確認されています。一方、エゾシカは非常に少なく、ヒグマも近年は減少の傾向にあります。

昆虫

天塩川下流現地調査（平成3年）により確認された陸上昆虫類は、392種で、チョウ目が多半数を占め、ついでオサムシなどのコウチュウ目などが生息しています。

River-Watch

点在する三日月湖

天塩川の周辺には、かつての蛇行の様子を今に伝える「三日月湖（旧河川跡地）」が点在し、地域やさまざまな動植物の営みを支えています。



●天塩川イベント

ダウン・ザ・テッシ・オ・ペツ

DOWN THE TESSHI-O-PETSU

ダウン・ザ・テッシ・オ・ペツとは、天塩川流域の市町村をネットワークで結ぶ広域イベントで、上流部から天塩町河口橋までの約100マイルをカヌーで下るという道内では過去に例のないロングラン・カヌーレースです。毎年、道内外から大勢のカヌーイストたちが集まり、天塩川の大自然を満喫しています。





位置図



流域諸元

- 汽船碼頭 1.399km (5.500h)
- 新橋站附近 天海路 58.3km (250h)
- 市街人口 12.367人 (33.48h)
- 汽船碼頭附近 天海路、新橋路、新橋
- 新橋站附近 (新橋站附近) 天海路 58.3km (250h)

天塩川(下流改修計画概要)

[illegible]

	凡	例
000-000-000	國	海 山 水 市役所前(普通、道路)
000-000-000	東 行 神	田 田 次郎前(普通、道路)
000-000-000	船 明 井	F 船庫・テニスコート

原生の自然の素顔に会う 利尻礼文サロベツ国立公園

360度のパノラマに、ペンケ沼、パンケ沼など大小様々な沼が点在し、寒冷地性植物の群落が広がるサロベツ原野は、約7,000年前に誕生した、南北に約30km、東西約8kmに広がる大湿原です。ここには6月下旬から7月中旬にかけて、鮮明なオレンジ色のエゾカンゾウや、綿帽子が白くまぶしいワタスゲ、ヒオウギアヤメやエゾイソツツジなど100種類以上の花が咲き乱れて原野を彩り、キタキツネや鳥達がたわむれるその様は真に感動のステージです。



●天塩川の川名の由来

アイヌ語のテシ・オ・ベツ(築川の意味)から由来します。地名となるテシの多くは岩が築のように川を横断しているところからそう呼ばれています。

